

【岸和田高校】

③さまざま方面への聞き書き……2003年度「国語総合 現代文」(1年生対象) ↓ 資料5～7

- ・3クラスを担当していたので、クラスによってテーマを変えてみた。
 - a 「16歳のころ」(岸高の先生対象)
 - b 「岸高生を見守る方々」(学校周辺のお店・駅など)
 - c 「泉州の名所・施設」(地域の観光スポットなど)
- ・4名前後のグループ分けをし、1クラスに10グループ前後になるように調整した。
- ・他の先生との進度調整のため、実際に授業でとれた時数は3時間程度。インタビューから記事のまとめまで、多くを授業外の課題とした。
- ・準備から完成までの時間が限られていたため、指導が中途半端になったことは否めない。
- ・しかしながら、生徒達が楽しんで取り組んでいることは伝わったし、着眼の良いグループもあった。

④「あの人に聞きたい インタビュー集」……2006年度「国語表現」(3年生対象の選択授業) ↓ 資料8

- ・国語表現の夏休み課題として7月に「聞き書き」を指示。2学期からは「記事のまとめ方」を中心に授業をした。
- ・本校の国語表現選択者は、他の選択科目との関係もあって学力上位者は少ないが、潜在的な表現意欲が強い者が多いため、いろいろ工夫が見られて面白い。内省的な生徒、学校不適應の経験者も少なくない。
- ・記事を集めて製本するまでには2ヶ月程度はかかる。2学期中間テスト中に印刷し、授業で製本させた。
- ・取材対象を「誰でも良い」とした。24名中、岸高教員7名、中学の先生や塾などの先生9名、家族5名、など。

⑤「わたしのクラスメイト紹介」……2007年度「国語総合 現代文」(1年生対象) ↓ 資料9

- ・夏休みを挟んでの7月と8月の短縮期間に実施した。説明に1時間、実習に1時間。記事は授業外の課題とする。
- ・ちょうど「世界陸上大阪大会」の審判に当たっていて、各クラス1時間ずつ自習にせざるを得なかったためのアイデア。
- ・聞き書き相手は男女ペアを基本とし、クジで決定した。親しい相手だと緊張感が薄れ、マイナス面の方が大きいと考えた。
- ・授業よりも、HRなどでクラスが親しくなる一環として行ってもよいと思った。ただし、いろんな配慮は必要になるが。

⑥「国語表現 インタビュー集」……2009年度「国語表現」(3年生対象の選択授業) ↓ 資料10

- ・前回の③との違いは、時期を2学期後半にしたこと。ちょっと忙しい時期ではあるが、みんな良く取り組んだ。
- ・取材対象の34名を見ると、岸高教員17名、家族8名。やはり時期的に手を広げにくい時期ではあったかな、と反省。ただし、将来の進路希望を見据えた取材も7名あった(幼稚園の先生、競歩選手など)。
- ・長吉高校時代と比べると、事前指導から取材、記事、清書、製本、お礼への流れは、結構スムーズになってきた。
- ・後述するが、⑦の「参観の先生に逆取材」は、大変いい機会を得たし、いい経験ができたと思う(私や生徒にとって)。

⑦研究授業での「聞き書きの練習」……2009年度「国語表現」 ↓ 資料11～13

- ・ちょうど11月に国語科の公開授業週間があり、それに乗って研究授業をさせてもらった。他校から6名、本校から3名の先生方に参観いただいた。他校からの先生が5名だと事前に聞いていたので、これを逆手にとって取材をし、聞き書きのレッスンをさせてもらおうと考えた。
- ・この年度の国語表現は2講座あり、一つが10名という少人数講座だったため、2名ずつ5グループに分け、5名の先生に聞き書きする形をとった(当日1名増えたが、少し遅れて来られたので、人数的にはちょうど良かった)。
- ・進行の不安なグループもあったので、前時に私がモデルとなって、短時間インタビューの練習をしておく。
- ・詳細は資料をご覧ください。取材・原稿書き・発表まで全てやり終えることができ、先生方にも満足いただけて帰ってもらえたという手応えがあった(資料13に感想掲載)。自画自賛ご容赦を。

4 結びとして……「聞き書き」という対話は何を生み出すのか、また、どんな形の授業が可能か？

人に問うこと・自分も答えることは人間関係の基本である。単純であるが、その場に応じて展開していかねばならない臨機応変さ、判断力が要求される。生徒達にとっても「スピーチ」や「ディベート」よりも「よそよそしさ」がなく、生活の延長線上としてとらえられやすい。騒がしいほどの私語(静かにしろ!)と、小さすぎるほどの声(もっと大きな声で!)併存する教室で、人と人をつなぐ「話し言葉」を鍛えていく術をもっと探っていくかねばなるまい。そしてそれは、どんな学校であろうとも可能なことなのだと信じている。